

に にこにこ笑顔で

い いつもみんなで

つ 紡ぎ繋げる心で

に 日本一をめざすのだ

## 真の栄冠は誰がために輝くのか

### ＜県大会・県吹奏楽コンクール激励会(R5.7.6)校長激励の言葉＞

不器用な自分は、楽器がひける人や、絵がうまく描けるとか、物を上手に作れる人を、率直にとっても羨ましく思っています。

学校の部活動は、主に「運動部」と「文化部」とに分けられますが、我が新津二中の文化部は、どの部もとても熱心に活動していますし、どの部も技術的なレベルが高いなあと思っています。それがどういうところとリンクして象徴的に表れているかということ、やっぱり、あいさつなどの礼儀や集団の雰囲気です。

放課後、校内で活動する文化部の活動場所に足を運ぶと、こちらが言う前に向こうから「こんにちは！」と声をかけている生徒がとても多く、活動している雰囲気がとてもいい印象をもっています。

吹奏楽部では、1年生の中にはまだ全体練習に加わずに、特別教室等の3階の各教室を使って2, 3人ずつで練習している時もあるのですが、いつも礼儀正しくさわやかに私に対応してくれます。

「吹奏楽は楽しい？」と聞くと、「楽しいです」とどの子も飛び切りの笑顔返してくれます。「上手になったね？」というと、「ありがとうございます！」と、さらに素敵な笑顔を見せてくれます。

私は、音楽の専門家ではありませんが、実際、4月の入部まもない頃と比べると、格段にきれいな音色を奏でていると感心しています。これからもっともっと上達してほしいと、心から応援したい気分させられます。

また、その後、音楽室に向かい全体練習を覗くと、すべての部員が先生の指導や指示に真剣に集中している姿は、同じ目標を共有する集団の質の高い緊張感を感じます。

4月から毎度話しているように、「あいさつ」ができたからといって、すばらしい人間、すばらしい学校になるわけではありません。当たり前前を当たり前前にできるような人間・集団だからこそ、自分も学校も成長するのです。

「朝読書」を静かに時間通りに始めて、読書に熱心に取り組めば、すぐに学力がつくわけはありません。しかし、自分のためになることや、集団のためにもなる当たり前のことを、当たり前のようにできる人間でなければ、学力など身に付くはずはないのです。

勝負事も、あいさつができる部が勝てるものではありません。あいさつのような当たり前のことを当たり前にできる部が勝てるのです。

運動部の中には、県大会に進めた人もいますし、進めなかった人もいます。何度も言いますが、勝敗や成績うんぬんは、相手がいることですので、ある意味仕方のないことです。

県大会に進んだ部や選手の皆さんは、もちろん称賛に価することを否定しませんし、今度の大会でも、もちろん勝負事である限り「勝つこと」をめざすのは当然だと思います。でも、はっきり言ってそれは二の次です。

繰り返します。私が望むのは、周囲から「愛され・励まされ・応援される」ような戦いぶり、周囲から「愛され・励まされ・応援される」ような礼儀・マナーでの参加態度です

新津二中の他の部だけでなく他校には、もしかしたらあなた方よりも必死に練習し、立派な生活態度であったかもしれないのに、残念ながら県大会に進むことのできなかつた人がたくさんいたかもしれません。そういった人の思いを考えれば、県大会に出場するにふさわしい態度で大会やコンクールに臨むのは当然のことです。

以前勤務した学校の、毎年のようにコンクールで金賞に輝いていた吹奏楽部を率いていた吹奏楽の大御所の同僚の先生に、大会で金賞獲得の秘訣を聞いたことがあります。

即座に答えました。「基礎練習」と「マナー」の2つであると。

「基礎練習」は、ロングトーン、ピッチ、ハーモニー、リズムを意識した徹底した反復練習。「マナー」は、あいさつ・礼儀や日頃の生活態度のすべて、であると。

当たり前のことを当たり前にできるような人間こそが、周囲から「愛され・励まされ・応援され」、それを新たなる自分自身の成長への原動力にする。我が意を得たりの納得の回答でした。

吹奏楽コンクールでも、県大会でも、チームや新津二中を応援してくれるすべての人とのすてきな心のハーモニーを奏でながら、ベストパフォーマンスを発揮してくれることを心から期待しています。